

後藤靜香選集

第九卷

善本社

刊行のことば

一八八四年大分県に生れた著者は、東京高等師範で数学を学び、女子教育に従事すること十三年、使命を感じて退職上京、全国を対象とする社会教育に身を投じ、これに挺身すること五十年、一九六九年八十五歳で東京に没した。

生涯に創刊した月刊誌二一種、その多くは一人で執筆し、その最盛期には講読者百万人をこえ、輪転機で印刷した。著書七〇余冊。

彼は単なる講演者著述家ではなく、常に大衆教育家、文化運動の指導者であった。勤労教育の主張と実践をはじめとし、救ライ、愛盲、老人福祉の先駆者、ローマ字、エスペラント、現代かなづかい等のすぐれた宣伝普及家でもあった。

今その生涯の全著作から、代表的なものをえらび、ここに「後藤静香選集」全十巻を刊行、後世への文化遺産とする。

後藤静香選集 第九巻

権威・道のしるべ

一九七八年九月十日 初版

著者 後藤 静香
発行者 山本三四男

企画編集 後藤静香選集刊行会

代表 中山隆 祐

東京都新宿区高田馬場一―二二―二

〒160 振替 〇―一二二九〇

発行所 株式会社 善本社

東京都千代田区神田神保町一―六〇

電話 東京 二九四―五三一七

振替 東京 九―一九五五七

印刷 花山印刷

落丁、乱丁はおとりかえいたします

1 目 次

《目次》

権 威

第一部

あなたの側に……………	八
三つの声……………	〃
欠陥……………	九
能力……………	〃
能力の根底……………	〇
愛するために……………	〃
学識……………	二
秋風来る……………	〃
奮闘……………	三
第一步……………	〃

計画……………	三
神性……………	〃
世の中……………	四
解決……………	〃
水脈……………	五
ぬれた心……………	〃
伸びゆく心……………	六
波紋……………	〃
自由……………	七
逆境……………	〃
堪えうる力……………	八
正義……………	〃
堅忍……………	九
有縁の悦び……………	〃
花は散る……………	〇

共存の悦び	三	道に出でよ	六
愛の負債	三	旅人の目	〃
花が咲く	〃	ぜいたく	元
三つのかげ	三	強者	〃
春の海	〃	門のとびら	言
寛容	三	不滅	〃
和らげよ	〃	植えたあと	三
永遠の平和	四	応答	〃
悦ぼう	〃	体験	三
雨後の月	五	確信	〃
悔恨	〃	信・賢・勇	三
黎明	六	美は美	〃
新生の子	〃	一片のパン	四
新記録	七	信ずる世界	〃
感謝	〃	感応	五

3 目 次

信 愛		量
犠 牲		爰
偉 大		//
富 嶽		毛
生きる悦び		//
深きところに		爰
沈 黙		//
拝みたい心		元
ばらよ		//
星から星へ		呂
昇 天		//
凱 歌		巴
これがために		//
第二部		
尊 重		四
三つの資格		四
欠陥と完成		四
報いを越えて		//
ただ一人		興
光景ひらく		//
小 善		四
よいつぼみ		//
人生の春		興
心のかわき		//
深いさびしさ		四
母なき子		//
芭 蕉		吾
並んでゆく		//
大志遠望		五
立 志		//

立つの日	三	鍛錬	禿
最善のもの	〃	別離	𪛗
片鱗	𪛗	子らは去りゆく	〃
未成熟	〃	浮雲	𪛗
若さの誇り	𪛗	安定	〃
稚氣	〃	本氣	𪛗
瞬間	𪛗	遊戲	〃
集中	〃	女は偉い	𪛗
今日	𪛗	怠惰	〃
松の木	〃	全力	𪛗
内在の自己	𪛗	大したこと	〃
どこまで登る	〃	四つの段階	𪛗
自己の平和	𪛗	誇り	〃
苦悶	〃	徳業の自由	𪛗
悔い改め	𪛗	健康を活かせ	〃

巷に立ちて	尨	時の力	尨
激流	〃	尽きせぬ悦び	尨
救いの船	穴	ありがたい	〃
二つの滅亡	〃	余裕	兵
着眼	亮	美	〃
力と正義	〃	自然	毛
勝利の人	呂	調和	〃
愛の威力	〃	故山	兕
天知る	セ	合体	〃
悦びの門	〃	拝みうる人	兕
改心	三	靈位	〃
豊富	〃	短命か	合
安眠	三	連鎖	〃
塵埃	〃	天の衣	亼
光の子	齒	救いの門	〃

7 目 次

理想	……	六	感激	……	二六
愛の制約	……	九	人類よ	……	二七
なでしこ	……	〃	一人	……	二七
命の種	……	一〇	見つめよ	……	〃
至幸至福	……	〃	三つの魂	……	二八
山守	……	一二	貫行	……	〃
仕合せ	……	〃	悦べよ	……	二九
法則	……	一三	交際	……	〃
価値	……	〃	特使	……	三〇
女性	……	一三	支える力	……	〃
活泉	……	〃	今のままで	……	三一
作品	……	一四	聖か俗か	……	〃
背景	……	〃	定規	……	二三
言葉	……	一五	天人	……	〃
声	……	〃	五月雨	……	二三

生きる真理	二三	微風	三
王者	二四	年齢	〃
別れ	〃	賢母	二三
考えよ	二五	誰だろ	〃
ただ一つ	〃	良い子	二三
発見	二六	子供のころ	〃
批評家よ	〃	最上最善	二四
与えよ	二七	弱いたましい	〃
最善の瞬間	〃	親ごろ	二三
女の力	二六	かれ	〃
束縛	〃	職業	二六
見方	二九	悦びの歌	〃
過分	〃	傑作	二七
親切	二〇	通ったあと	〃
育てる心	〃	点滴	二六

嬉しいな	一三	怒るなかれ	一七
垣を去れ	一三	美を感じる心	一六
恩寵	〃	種をまく	〃
第四部		幼き日の蜜	一五
旭日	一三	必ず変る	〃
うぐいす	〃	喜びの人	一四
静けさ	一三	酔える人	〃
うれしい日	〃	山路	一四
孔子と歌	一三	繁み	〃
病床の人	〃	道ゆく姿	一三
眼は前へ	一三	緑のいのち	〃
後半昭々	〃	星に涙あり	一三
力湧く	一三	厳肅なる夢	〃
私情	〃	大海の一滴	一四
わが仕事	一七	底静かなり	〃

これ常道……………	一五	愛の人……………	一五
見えねど美し……………	〃	白菊……………	一五
夢中になる……………	一四	あの気品……………	〃
登山……………	〃	丈夫烈女……………	一四
心眼……………	一七	青春長し……………	〃
大雪溪……………	〃	猿は猿なり……………	一五
ちぎれ雲……………	一四	何処よりか……………	〃
雪の底には……………	〃	棄てよ……………	一五
西瓜……………	一四	大根……………	〃
天職……………	〃	先達の心……………	一七
許すもの……………	一五	友の態度……………	〃
英雄主義の否定……………	〃	祝福……………	一六
凡人礼讃……………	一五	村雨……………	〃
無智は恐ろし……………	〃	時に順ぜよ……………	一五
夢の跡……………	一五	実りの営み……………	〃

11 目 次

働くはうれし	一〇	運命	一〇
絶望とは	一〇	老樹	一六
大事業	一三	本当の勇者	一六
国を興す	一三	赤彦	一六
雪ひかる	一三	誰のおかげぞ	一七
男なり	一三	飛躍	一七
自己の反映	一三	花	一七
無くてならぬ人	一四	達人	一七
争いは	一四	自力目ざむ	一七
愛すれば	一四	輪をつくれ	一七
宝石	一五	空を見て	一七
地上なり	一五	人間が近い	一七
至人	一五	にわか雨	一七
救いの手	一五	楽しみ	一七
対照	一五	時がある	一七

トルストイ	一五
珍しきかな	〃
思い出の道	一六
世渡り	〃
さるすべり	一七
発憤	〃
一日でも	一八
手紙	〃
知らしめよ	一九
希望がもてる	〃
すみれ咲く	二〇
勇士還る	〃
貴く生きん	二一
同胞に訴う	〃
民族の素質	二二

一人一人が	二三
三つの鍵	二四
天地の理法	〃
祖国再建の歌	二五
『権威』補遺	
「権威」第一版（大正10年7月刊）	
権威	二六
見ておれ	〃
連戦連勝	二七
小枝よ	〃
応援	二八
亡き父	〃
病床	二九
心労	〃

観桜……………	一五	生きる特権……………	二〇〇
勝利……………	〃	聖人……………	二〇一
さあ立とう……………	一四	金鵒……………	〃
おわび……………	〃	孝道……………	二〇二
愛着……………	一五	神秘境……………	〃
野花……………	〃	貧弱……………	二〇三
萌芽を断て……………	一六	肉塊……………	〃
断行……………	〃	自分……………	二〇四
女の誇り……………	一七	抱かれよ……………	〃
火焰……………	〃	熱中……………	二〇五
鮮血……………	一六	日本……………	〃
過程……………	〃	靈交……………	二〇六
目標……………	一七	純潔……………	〃
農民……………	〃	ダンテ……………	二〇七
語られぬ人……………	一八	隠れた兄弟……………	〃

別れぬ友……………	三〇	不用……………	三五
万有……………	〃	真剣……………	三六
徒勞……………	三九	敬う世界……………	〃
弾力……………	〃	絶対の信……………	三七
心霊の呼吸……………	三〇	聖戦……………	〃
与える前……………	〃	寒暑……………	三八
自分のこと……………	三二	終末来る……………	〃
お慈悲……………	〃	妙味……………	三九
苦しみ……………	三三	死後……………	〃
同尊同権……………	〃	凡骨……………	三〇
損の道……………	三三	絶頂……………	〃
物足りない……………	〃	除夜……………	三三
社員へ……………	三四	奇蹟……………	〃
戦友……………	〃	「閃光」(大正13年4月刊)	
真似……………	三五	恩恵……………	三三